

衛研ニュース

No. 187



第38回山形県衛生研究所業務報告会が開催されました

今年度の調査研究業務の集大成となる業務報告会が2018年3月5日に開催されました。総数15題(生活企画部:2題、理化学部:9題、微生物部:4題)の演題が発表され、活発な討議が行われました。本報告会で生まれた新たな気づきやアイデアが、次年度の調査研究業務に活かされています。

も く じ

- ※ 茨城県・鹿児島県のウイルス分離のために
- ※ 衛生研究所ホームページをリニューアルしました
- ※ トピックス

- 水田 克巳 (2)
- 衛生研究所PC管理委員会 (4)
- 衛研ニュース作成委員会 (4)

基本方針

県民の生活と健康を支えるため、
緊密な連携をもとに次のことを心がけます。

- 1 信頼される検査結果及び研究成果の提供
- 2 高い倫理観を持ち、知識、科学技術の修得育成
- 3 地域社会へ、わかりやすい保健情報の迅速な提供
- 4 公衆衛生向上のための医療、福祉との密なる連携
- 5 新たな創造へ、和をもって意欲的にたゆまぬ努力

編集発行

山形県衛生研究所

平成30年3月10日発行
〒990-0031 山形市十日町一丁目6番6号
Tel. (023) 627-1108 生活企画部
Fax. (023) 641-7486
URL ; <http://www.eiken.yamagata.yamagata.jp>

茨城県・鹿児島県のウイルス分離のために

2017年12月、茨城県衛生研究所、研究調整監兼企画情報部長からお電話をいただきました。ウイルス分離のステップアップのための、ウイルス部職員2名の当所訪問のご依頼でした。地方衛生研究所（地研）のウイルス分離技術底上げへの協力は歓迎ということで、2018年1月18-19日（木-金）にご来所いただくことになりました。年が明け、鹿児島県環境保健センター微生物部長からも同様に職員を派遣したいとご連絡いただき、急遽同じ日程で来形されることになりました。

初日はまず当所安全管理規程にもとづく教育訓練、ウイルス分離のイントロダクションの講義を行いました。木曜午後は、当所の集中検体処理日です。細胞（マイクロプレート）への検体接種を中心に、ウイルス増殖によって細胞が変化の様子（細胞変性効果：CPE）・赤血球凝集試験・赤血球吸着試験の観察をしていただきました。その合間で当所のウイルス分離システム全体の話をし、また培地や試薬の作成や保管、臨床検体・検体由来の遺伝子検体（RNAやcDNA）・分離株の保存についてフリーザーを開けながら見ていただきました。時間が許す限り、ウイルスの増殖の様子を経時的に撮影したタイムラプス映像をお見せしてCPEの特徴について説明しました。皆さまには、あわただしい日程の中、微生物部新年会にもお付き合いいただきました。夜の会には、いつも検体を持参して下さりお世話になっている小児科の先生、共同研究でご指導いただいている山形大学医学部感染症学講座の先生にもご参加いただき、「チーム山形」の独特の雰囲気を体感していただいたところです。二次会にもご参加いただき、果たして夜はお休みになれたでしょうか・・・

二日目は朝から講義の続きをしました。この中では、どうしてウイルス分離が大切なのか、地研はどうあるべきか、について私の持論をお話させていただきました。エンテロウイルスA71型の疫学研究、パレコウイルス3型と流行性筋痛症/筋炎の病因論に関する研究、についてご紹介しました。検体を手にした時、ウイルスの遺伝子があった・なかったで終わることなく、付加価値をつけることが大切であることを強調しました。引き続き、CPE、ウイルスの分離・継代、中和試験、を見ていただきました。準備していたヒトメタニューモウイルスも、ちょうどCPEの出始めのタイミングをお見せすることができ、

ほっとしているところです（田中静佳専門研究員お見事でした！）。

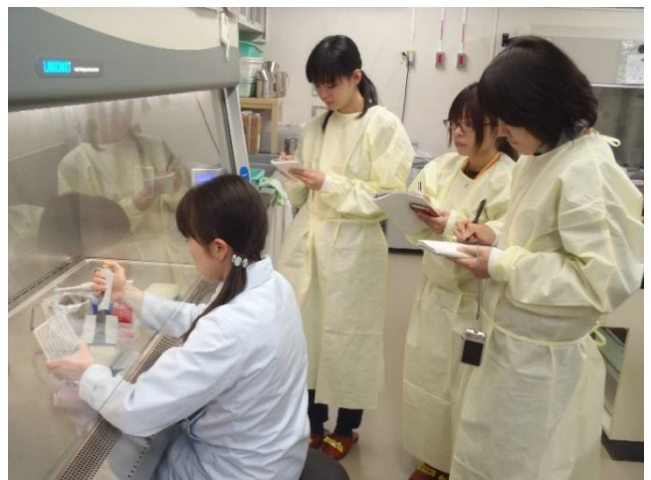
3名の先生方には、限られた時間ではありましたが、欲張った日程に耐え抜いていただき、感謝いたします。きっと先生方の熱意があれば、これまで困難であったウイルスの分離は可能になると確信しています。“ウイルス分離うまくいきました！”というご連絡をお待ちしています。あせらずに、また欲張らずに、一步一步前進されることを祈念しています。

（所長 水田 克巳）

研修を受けられた先生方の感想

この度はお忙しい中、2日間にわたり研修を受け入れていただきありがとうございます。研修では、ウイルス分離培養検査の流れや、茨城県ではこれまで分離したことのないウイルスによる細胞変性像を見せていただくなど、大変貴重な経験をさせていただきました。今回教えていただいた知識や技術を持ち帰り、今後の茨城県衛生研究所ウイルス部のスキルアップにつなげていきたいと思っております。

茨城県衛生研究所 ウイルス部
土井 育子 先生



茨城県・鹿児島県のウイルス分離のために

今まで私が用いていた検査法では分離できるウイルスが限られていましたが、今回の研修を通して、ウイルス分離率向上のきっかけを掴むことができました。様々な技術を細やかにご指導いただき、ウイルス分離の意義も改めて実感しました。早速、学んだことを検査に取り入れ始めています。今後、過去に分離ができなかった検体についても再挑戦していく予定です。

2日間、大変お世話になりました。ありがとうございました。

茨城県衛生研究所 ウイルス部
齋藤 葵 先生

この度は急なお願いにもかかわらず細胞培養研修を快く引き受けてくださり本当にありがとうございました。鹿児島県では扱っていない細胞や分離したことのないウイルスのCPEを実際に見ることが出来てとても勉強になりました。懇親会では山形県のおいしいものもいただくことも出来て、充実した2日間でした。

水田所長さん、微生物部の皆さん本当にありがとうございました。

鹿児島県環境保健センター 微生物部
浦元 千織 先生



衛生研究所の論文・学会等発表

発表論文

- 1) 勝島由利子、勝島史夫、水田克巳、松寄葉子：パラインフルエンザウイルスが分離された発疹症の4例、小児科診療81:125-128, 2018.
- 2) 瀬戸順次、阿彦忠之：山形県における高齢者の内因性再燃結核症例の季節性、結核93:93-100, 2018.

学会等発表

- 1) 大滝麻井子、沼澤聡明、笠原翔梧、伊藤育子、長岡由香、佐田厚史：自然毒一斉分析法の開発と食中毒への適用、平成30年1月20日、第32回日本中毒学会東日本地方会、於山形市
- 2) 太田康介、大滝麻井子、佐田厚史：食中毒検体を想定した試料でのトリカブト鑑別法、第44回山形県公衆衛生学会、平成30年3月8日、於山形市
- 3) 大河原龍馬、篠原秀幸、佐田厚史：呈色反応によるツキヨタケの理化学的鑑別法、第44回山形県公衆衛生学会、平成30年3月8日、於山形市
- 4) 篠原秀幸、萬年美穂子、佐藤陽子、沼澤聡明、大滝麻井子、石田恵崇、伊藤育子、佐田厚史：山形県に流通する農産物中の残留農薬検査結果（平成18年度～平成29年度）、第44回山形県公衆衛生学会、平成30年3月8日、於山形市
- 5) 駒林賢一、池田辰也、瀬戸順次、田中静佳、鈴木裕、的場洋平、海野真紀、水田克巳：山形県における麻しんの集団発生、第44回山形県公衆衛生学会、平成30年3月8日、於山形市
- 6) 小川直美、山田 浩貴、小松 秀一、伊藤真由美：平成29年の村山・庄内地域における蚊の生息状況調査、第44回山形県公衆衛生学会、平成30年3月8日、於山形市

衛生研究所ホームページをリニューアルしました

この度、当所ホームページをリニューアルいたしました。皆様に、より快適にホームページを使っただけできるよう、情報を整理し、分かりやすく見やすいレイアウトにしました。

今後もよりいっそう充実したホームページにしていきますので、よろしくお願いたします。

(衛生研究所PC管理委員会)



トピックス

第2回抗酸菌研究会（平成29年11月23～24日）における瀬戸順次主任専門研究員の口演「結核菌分子疫学により判明した遠隔地における検査室内交差汚染事例」が優秀演題に選定され、The 52nd US-Japan Mycobacteria Panel Meeting 2018 in Niigata, Japan（平成30年3月、於新潟）より招待を受けて口演することになりました。（衛研ニュース作成委員会）